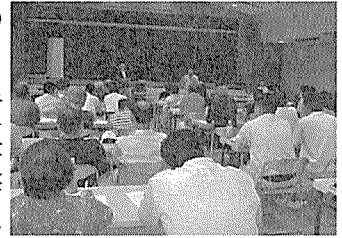


「和牛更新牛の今後の市場性」沖縄で講演、ミートCの植村常務



沖縄県農業協同組合は、沖縄県の部分肉処理加工施設整備事業の一環として県内の畜産農家ら100人を対象に「牛更新牛の今後の市場性」と題した講習会をこのほど開催した。講師には㈱ミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役が招かれ、素牛生産における繁殖牛更新による若返りと素牛の資質向上。市場としての優位性を保つための更新和牛の食肉としての有効活用と市場性で講演した。会場は、沖縄本島地区の沖縄市農民研修センターと伊江島地区のJA伊江支店ホールの2カ所で行われ、沖縄本島地区では午後2時からの講演会に約60人、伊江島地区では午後7時30分から約40人の肉用牛関係者が参加して熱心に学習した。

植村講師は、首都圏における「おきなわ和牛」の販売状況や肉質安定によるブランド構築状況を、自社の経験に基づいて詳細に紹介するとともに、食肉加工のトレンド紹介では更新牛は高級ハンバーグの原料として首都圏で需要がある。さらに年間600万人が沖縄を観光客として訪問しているが、この観光客向けの提供と活用、学校給食での地産地消や食育の活用にも向けることが考えられる。こうした地域振興にもおきなわ和牛の更新牛(経産牛)の活用の道が開けるとともに、新たな需要の道も期待が持てることを紹介した。なお、講演会前日には首都圏の食肉関係11社、15人が参加しての「おきなわ和牛現地枝肉検品会」も開催された。

微生物・ウイルス専門調査会を29日に開催―食品安全委員会

食品安全委員会は微生物・ウイルス専門調査会(第36回)を29日午後2時から同委員会中会議室(赤坂パークビル22階)で開催する。議事は①リステリア・モノサイトゲネスに係る食品健康影響評価について②その他。

肥料・飼料等／微生物・ウイルス合同専門調査会、来月4日に

食品安全委員会は、肥料・飼料等(第63回)／微生物・ウイルス(第37回)合同専門調査会(薬剤耐性に関するWG)を12月4日午前10時から同委員会中会議室(赤坂パークビル22F)で開催する。議事は①家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響評価について(飼料添加物サリノマイシンナトリウム)②家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響評価について(飼料添加物ナラシン)など。

神奈川県とユニーが協定、うまいもん市で鎌倉ハムなど販売

神奈川県とユニーはこのほど、連携・協力のための包括協定を締結した。協定を記念し神奈川県産品を紹介する「神奈川県うまいもん市」を12月2日まで関東27店舗で開く。同市では鎌倉ハムや横浜のシューマイなどを販売する。